

1 得点分布及び小問ごとの正答率

〈表1〉得点分布

得点	660人	
	人数	%
100	1	0.2
90～99	40	6.1
80～89	117	17.7
70～79	153	23.2
60～69	148	22.4
50～59	82	12.4
40～49	67	10.2
30～39	31	4.7
20～29	20	3.0
10～19	1	0.2
1～9	0	0.0
0	0	0.0

*合格者の中から、無作為に抽出した660人(12.2%)の結果である。

〈表2〉小問別正答率(%)

大問	小問	正答率		
1	1	(1) 86.1		
		(2) 87.3		
		(3) 63.0		
		(4) 67.5		
		(5) 70.5		
		(6) 81.8		
	2	(1) 71.8	(2) 61.8	
			(3) 66.5	
			(4) 49.5	
			(5) 1 78.6	
			(6) 3 72.3	
			小計 71.4	
		2	1	(1) 54.6
				(2) 92.7
(3) 59.7				
(4) 62.7				
(5) 86.2				
(6) 52.8				
2	(1) 66.7		(2) 74.1	
			(3) 54.1	
	(4) ア 79.0		イ 50.2	
			小計 66.6	
3	1	(1) 97.3		
		(2) 81.2		
		(3) 67.6		
		(4) ア 83.6	イ 62.3	
			(5) 36.7	
		2	(1) 31.1	
	(2) 48.6			
	(3) 58.9			
	(4) 79.5			
	(5) 66.2			
(6) 52.0				
小計 63.8				
4	1	(1) 75.2		
		(2) 23.1		
		(3) 92.7		
		(4) 77.7		
	小計 67.2			

〈表3〉大問別の正答率の経年比較

大問	分野	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
1	地理的分野	65.3	63.8	52.3	66.0	71.4
2	歴史的分野	68.1	58.7	47.6	55.8	66.6
3	公民的分野	66.1	54.2	50.4	61.9	63.8
4	3分野融合	—	—	—	53.3	67.2

2 分析結果の概要

〈表1〉について、70点以上の得点者の分布は47.2%で、昨年度と比べ12.5ポイント上がり、高得点者がかなり増加した。50点未満の分布は18.1%で、昨年度と比べ10.3ポイント下がり、低得点者もかなり減少した。

〈表2〉について、いずれの大問においても、知識・技能を用いて、グラフや写真、年表等の諸資料を活用し、考察したことを表現する力をみる小問の正答率が低い。高度成長期以降の日本経済の特色に関する3の2の(1)、日本にカトリックが伝わった理由を判断する4の(2)は、特に正答率が低い。

〈表3〉について、分野別の正答率は地理的分野が高く、公民的分野が低い。昨年度との比較では、3分野ともに正答率が高くなった。また、4は3分野融合の問題である。正答率は昨年度に比べ、13.9ポイント上がった。

3 小問ごとの内容及びねらい

大問	小問	内容	出題のねらい	出題形式			評価の観点			
				記号 選択	用語 記述	記述	知識 理解	思考 判断	資料 活用	
1	1	地理的分野	(1) 環太平洋造山帯について理解している。		○		●			
			(2) 日本とカナダの時差について、日付変更線を基に判断することができる。	○			●	●		
			(3) 2つの都市の年平均気温と標高の関係について、資料から判断することができる。	○				●	●	
			(4) 日本とマレーシアとの貿易について、資料からその特色を考察することができる。	○					●	
			(5) オーストラリアの都市の分布について、気候の分布と関係付けて、資料から読み取ることができる。		○		●		●	
			(6) オーストラリアが小麦を輸出する際の利点について、資料から考察することができる。			○		●	●	
	2			(1) 日本の発電エネルギー源別割合を理解している。	○			●		
				(2) 火力発電所の立地条件について、資料から考察することができる。			○		●	●
				(3) 愛知県の工業の変化を調べるための統計資料を判断することができる。	○				●	●
				(4) 新東京国際空港の輸出品の特色について、資料から判断することができる。			○		●	●
(5) 日本の電力やエネルギー事情、太陽光発電の課題について、資料から考察することができる。						○		●	●	
2	1	歴史的分野	(1) 島原・天草一揆について理解している。		○		●			
			(2) 江戸時代の教育の広がりについて、宮崎県の藩校と関連付けて、判断することができる。	○				●	●	
			(3) 西南戦争の政府軍の特色について、資料から判断することができる。	○				●	●	
			(4) 廃藩置県について、宮崎県の資料と関連付けて、判断することができる。		○		●	●	●	
			(5) 明治維新の三大改革について理解している。	○			●			
			(6) 西南戦争の政府軍の特色について、資料から判断することができる。			○		●	●	
	2			(1) 鎌倉時代の地頭について理解している。	○			●		
				(2) 天平文化の特色について理解している。			○	●		
				(3) 尊王攘夷運動の高まりを示す具体的な動きについて、資料から判断することができる。	○			●		●
				(4) 弥生時代の人口が増加した背景を、資料から考察することができる。			○		●	●
3	1	公民的分野	(1) 政権交代について理解している。	○			●			
			(2) 首相を指名する際の衆議院の優越について、資料から読み取ることができる。			○	●		●	
			(3) 衆議院の選挙のしくみについて、資料から読み取ることができる。	○			●		●	
			(4) 議院内閣制と地方公共団体の首長の選出について理解している。		○		●		●	
			(5) 市町村が合併する理由について理解している。	○			●	●		
	2			(1) 高度経済成長以降の日本経済の特色について理解している。		○		●		
				(2) 公共料金が決められるしくみについて理解している。	○			●		
				(3) 金融のはたらきについて理解している。		○		●		
				(4) 企業のはたらきやその社会的責任について理解している。		○		●	●	
				(5) NPOの活動について理解している。	○			●		
4		融合	(1) おもな宗教の分布の特色について、資料から読み取ることができる。	○					●	
			(2) 日本にカトリックが伝わった背景について、資料から読み取ることができる。			○		●	●	
			(3) 日本国憲法の信教の自由について理解している。	○			●		●	
			(4) 国際連合の常任理事国の拒否権について理解している。			○	●			

4 標準解答及び考察

1 <標準解答>

1	(1)	環太平洋	造山帯	(2)	エ	(3)	イ	(4)	ウ	(5)	温帯
	(6)	(例) 収穫期が11月から1月なので、日本で収穫できない時期に輸出することができる。									

<ねらい>

4か国の地図等の資料を基に、世界の国々と日本との関係について調べる場面の中で、世界の地域構成や世界と比べて見た日本に関する基礎的・基本的な知識や理解力、資料に基づいた思考力・判断力をみる問題である。

<考察>

- ・ 赤道付近にある2つの都市の年平均気温が、標高の違いによって差がある理由を資料から判断する問いの正答率は、他の問いと比べるとやや低い。
- ・ 環太平洋造山帯や日付変更線に関する問いは、正答率がいずれも80%台と高く、十分な理解ができています。オーストラリアが小麦を輸出する際の利点に関する問いも同様に正答率が高く、資料を的確に読み取り、考察することができています。

<今後の指導>

- ・ 地理的分野の各項目で学習した成果を踏まえ、相互に関連付けて日本や世界の諸地域の特色を考察する学習の充実を図る。
- ・ 資料を読み取る学習においては、資料の中の根拠となるものを明確にして、地域的特色をとらえるための視点や方法を身に付けさせる指導を行う。

<標準解答>

2	(1)	イ	(2)	(例) 発電に使う原料の輸入がしやすいので、沿岸部							
	(3)	ウ	(4)	記号 X	理由(例) 高価で小型軽量の製品の輸出が多いから。						
	(5)	まとめ1 (例) 使用電力量は増えているが、エネルギー自給率が低い。 まとめ3 (例) 発電費用が高い。									

<ねらい>

日本のエネルギー事情に関する資料を基に、日本のエネルギー事情と産業の関係について調べるという場面の中で、日本の地域構成や世界と比べて見た日本に関する基礎的・基本的な知識や理解力、資料に基づいた思考力・判断力、資料活用能力・表現力をみる問題である。

<考察>

- ・ 日本の電力やエネルギー事情、太陽光発電の課題に関する問いは正答率が高く、資料を的確に読み取り、考察することができています。
- ・ 貿易港の輸出品の特色に関する資料を読み取り、判断する問いの正答率は49.5%で、地理的分野の中で最も低い。輸送だけでなく、工業や貿易の理解にも関係しており、それらの知識・理解を基にした判断ができていない解答が目立った。

<今後の指導>

- ・ 様々な資料を収集、選択、処理したり、地域間を比較し関連付けてとらえたりする調べ方、学び方の学習の充実を図る。
- ・ 課題の解決にかかわる様々な資料を的確に読み取らせて、自分の考えを発表したり、記述したりする学習の充実を図る。

2 <標準解答>

1	(1)	島原・天草	一揆	(2)	エ	(3)	新政府軍	(4)	廃藩置県	
	(5)	ウ	(6)	記号 A	理由(例) Aの方が近代的な装備をしているから。					

〈ねらい〉

近世から近代の宮崎県と日本に関する年表を作成し、発表するという歴史的分野の学習場面の中で、日本の歴史の大きな流れと各時代の特色に関する基礎的・基本的な知識や理解力、思考力・判断力、資料活用能力・表現力をみる問題である。

〈考察〉

- ・ 江戸時代の教育の広がりや明治維新の三大改革に関する問いは、正答率が高い。本県の藩校と関連付けた判断や、明治維新に関する基礎的・基本的な知識や理解力は、概ね身に付いていると考えられる。
- ・ 西南戦争に関する問いは、明治維新に関する理解との関連もある。正答率は52.8%で、歴史的分野の中で最も低い。基礎的・基本的な知識を基に、歴史的事象に関する資料を的確に読み取り、判断することができていない解答が目立った。

〈今後の指導〉

- ・ 身近な地域の歴史や具体的な事象を取り上げて、日本の歴史の大きな流れと各時代の特色に関連付けて学習を展開し、歴史的事象に対する関心を高める指導の充実を図る。
- ・ 身近な地域の年表や絵画など、生徒の関心を高めるような資料を活用して、歴史的事象を多面的・多角的に考察できるような展開や教材を取り入れた指導の充実を図る。

〈標準解答〉

2	(1)	ア	(2)	(例)仏教の力にたよって国家を守ろう	(3)	ア
	(4)	ア	(例)稲作	イ	(例)食料を保存したり、定住したりするなど生活が安定した	

〈ねらい〉

宮崎県の各地の歴史に関する資料を基に学習するという歴史的分野の学習場面の中で、日本の歴史の大きな流れと各時代の特色に関する基礎的・基本的な知識や理解力、思考力・判断力、資料活用能力・表現力をみる問題である。

〈考察〉

- ・ 尊王攘夷運動の高まりを示す具体的な動きを資料から判断する問いは、正答率が54.1%と低い。尊王攘夷とは全く関連のない資料を選択している解答が目立った。
- ・ 古代の人口増加に関する問いにおいて、稲作が背景にあるという理解は十分にできている。しかし、日本の豊かな自然環境の中における人々の生活が、どのように変化していったのかという考察は正答率が50.2%と低く、時代の移り変わりに関する理解が十分ではないと考えられる。

〈今後の指導〉

- ・ 身近な地域の歴史や具体的な事象を取り上げることで、抽象的・概念的で無味乾燥な歴史学習に陥ることを防ぎ、生徒が歴史を主体的に学習することを促す。
- ・ 歴史的事象の因果関係を考察させたり、疑問に対する仮説を設定させたりするなど、歴史学習に対する興味・関心を引き出す授業を行う。

3 〈標準解答〉

1	(1)	ウ	(2)	(例)衆議院の優越があるから。	(3)	ウ
	(4)	ア	不信任	イ	首長	(5)

〈ねらい〉

内閣総理大臣の指名に関する新聞記事を基に、学習した内容と関連することを調べるという場面の中で、衆議院の優越や国政選挙、内閣のしくみや地方自治などに関する基礎的・基本的な知識や理解力、思考力・判断力、資料活用能力・表現力をみる問題である。

〈考察〉

- ・ 昨年の国内の政治を象徴する「政権交代」に関する問いの正答率は97.3%で、すべての小問の中で最も高い。学習内容が時事的事象との関連で確実に理解されている。
- ・ 市町村合併の理由に関する問いの正答率は36.7%で、他の小問と比べるとかなり低い。誤答例としては、「福祉など市町村の仕事が増えているから」が多い。

〈今後の指導〉

- ・ 公民的分野における重要用語等の概念は、実際の国政選挙や内閣総理大臣の指名など、具体的な社会的事象を取り上げながら、確実に理解させる。
- ・ 地方自治等のしくみや動きを取り扱う際には、身近な地域における具体的な社会的事象と関連付けながら、取り上げるようにする。

〈標準解答〉

2	(1)	ウ	(2)	(例)国会や政府が決定・認可して決められる。	(3)	金融
	(4)	エ	(5)	ア	(6)	(例)賃金が下がって、家計の収入が減る

〈ねらい〉

コンビニエンスストアに関する新聞記事を基に、学習した内容と関連することを調べるといふ場面の中で、日本経済の特色や金融・企業のはたらき、人類の福祉の増大などに関する基礎的・基本的な知識や理解力、思考力・判断力、資料活用能力・表現力をみる問題である。

〈考察〉

- ・ 高度経済成長以降の日本経済の特色に関する問いの正答率は31.1%で、他の小問と比べるとかなり低い。戦後から近年にかけて、各時期の経済の特徴に関する理解が不足している。

〈今後の指導〉

- ・ 生徒にとって身近な社会的事象を通して、市場経済の基本的な考え方を理解させ、国や地方公共団体、企業が果たしている役割について、考察させるような学習の充実を図る。

4 〈標準解答〉

(1)	ア	(2)	(例)ルターの宗教改革に対して、カトリック教会の立て直しをめざしたイエズス会が、アジアにも信仰を広めようとしたから。
(3)	イ	(4)	(例)常任理事国のうち1国でも反対すると

〈ねらい〉

社会科学習のまとめとして、興味をもったテーマについて調査研究を行うという場面の中で、3分野に関する基礎的・基本的な知識や理解力、思考力・判断力、資料活用能力・表現力をみる問題である。

〈考察〉

- ・ 日本にカトリックが伝わった背景に関する問いの正答率は23.1%で、すべての小問の中で最も低い。世界の歴史を背景にした理解ができていない。
- ・ 日本国憲法の信教の自由に関する問いの正答率は92.7%と高い。自由権のしくみの具体的な理解が図られている。

〈今後の指導〉

- ・ 各分野の特質に応じた学習指導を展開する中で、他の分野の位置付けや役割に留意し、各分野の有機的な関連を生かしながら、全体として調和がとれるような指導を展開する。
- ・ 補充的な学習、発展的な学習などを適切に工夫して取り扱う際に、3つの分野の関連を重視した学習を展開する。